

朝の館内放送

平成30年5月7日
スピーカー 市長

みなさん、おはようございます。
市長の中村健です。

5月2日から3日にかけて、友好都市である、山形県米沢市に行ってきました。

駆け足での行程となりましたが、現地では手厚いおもてなしを受け、非常に感激をするとともに、西尾市がおもてなしをする際には、受けた以上のご恩を返せるよう、思いを新たにしました次第です。

米沢市とは、平成25年12月15日に友好都市提携を結んでいますが、その理由について、どれくらいの人知っているでしょうか。

一言でいえば、江戸時代に、吉良家と上杉家とがそれぞれのお家存続を図るため、「三重の縁」と呼ばれる縁戚関係にあったことに由来します。

米沢藩第三代藩主である上杉綱勝の妹、三姫（後の富子）が、吉良義央に嫁いだ第一の縁。

上杉綱勝の死後、吉良義央の子である三之助（後の上杉綱憲）が養子として迎えられ、上杉家が存続することができたという第二の縁。

吉良家の後継ぎとして、義央の外孫にあたる、綱憲の子（後の吉良義周）を迎えた第三の縁。

こうした深いご縁によって、吉良と米沢は強い絆で結ばれているのです。

さて、上杉家の城下町として栄えた米沢市ですが、第9代藩主である上杉鷹山については、知っている人も多いと思います。

上杉鷹山は、財政再建、産業育成、精神面の改革を行うことで、当時借金だらけであった米沢藩の財政を立て直し、今もなお、理想のリーダーとして挙げられることの多い人物です。

そして、鷹山が残したとされる有名な言葉に、「為せば成る」があります。

朝の館内放送

このフレーズには続きがあり、正しくは、「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」です。

これを訳せば、「何かを為し遂げようという意思を持って行動すれば、何事も達成に向かう。ただ待っていて、何も行動を起こさなければ、良い結果には結びつかない。結果が得られないのは、為し遂げる意思を持って行動しないからだ。」となります。

目標に向かって努力している人を鼓舞してくれる、そんなフレーズではないでしょうか。

少子高齢化が進展するこれからの日本は、財政的にますます厳しい状況に置かれます。

そんな時、200年ほど前に、借金だらけであった財政を立て直した上杉鷹山の言葉は、説得力を持って心に響いてきます。

私たち西尾市の職員も、明るい西尾の未来のために、「為せば成る」の精神で、積極的に行動を起こしていきましょう。